

平成29年度全国学力・学習状況調査結果について

(1) 国語

①国語A 主として「知識」に関する問題

平均正答率について、全道平均・全国平均を上回る結果となった。

【成果】 ①「書くこと」の領域における「書く能力」をみる問題の正答率が高い。

- ・書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くこと
- ・書いた文章をについての助言をもとに、自分の表現を見直すこと
- ・目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめること

②「話すこと・聞くこと」の領域における「話す・聞く能力」をみる問題の正答率が高い。

- ・目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと
- ・話すための材料を人との交流を通して集めること

【課題】 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域における「言語の知識・理解・技能」に課題がある。

- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる。
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解しているか。
- ・楷書と行書との違いを理解しているか。

【身につけさせたい力】

- 事象や行為などを表す多様な語句について理解する力
- 楷書と行書の違い、そして行書の特徴を理解する力

②国語B 主として「活用」に関する問題

平均正答率について、全道平均・全国平均を上回る結果となった。

【成果】 「読むこと」の領域における「読む能力」をみる問題の正答率が高い。

- ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。
- ・場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する。

【課題】 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の複数の領域にかかわる、記述式の問題の正答率が低い。

- ・表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことができる。

【身につけさせたい力】

- 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。
- 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く。
- 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。

【国語の対策】

- ①教科書教材に限定せず、多様な文章を教材として扱う。
- ②書写の基礎知識を高める取組
 - ・大事なポイントは板書し、ノートに書かせるなどの工夫。
 - ・字を書くときに注意すべきことをスモールステップで繰り返し指導する。
- ②話す能力を高める取組
 - ・討論など、相手の反応を踏まえた上で発言できるような授業をより多く行う。
 - ・スピーチ原稿の型を教え、それに沿って内容をまとめさせる指導を行う。

(2) 数学

①数学A 主として「知識」に関する問題

平均正答率について、全道平均・全国平均を上回る結果となった。

- 【成果】**
- ①「数と式」の領域における、技能や知識・理解を問う問題の正答率が高い。
 - ・正負の数、文字式の計算や、方程式を解くことができる。
 - ・文字式の意味や、方程式の解の意味を理解している。
 - ②「資料の活用」の領域における、技能や知識・理解を問う問題の正答率が高い。
 - ・言葉の意味を理解し、目的に応じて資料を整理し、傾向を捉えることができる。
 - ・確立の意味を理解し、事象の起こる確率を求めることができる。

- 【課題】**
- ①「図形」の領域における、技能や知識・理解を問う問題の正答率が低い。
 - ・扇形の弧の長さを求めることができるか。
 - ・空間における直線や平面の位置関係を理解しているか。
 - ・証明の根拠として用いられる三角形の合同条件や平行四辺形になるための条件を理解しているかどうか。
 - ②「関数」の領域における、技能や知識・理解を問う問題の正答率が低い。
 - ・関数や比例定数、変化の割合、傾きと切片等の意味を理解しているか。
 - ・表やグラフから、比例や反比例を式で表すことができるか。
 - ・二元一次方程式を関数の式とみて、変化や対応を理解することができる。

【身につけさせたい力】

- 関数の意味を理解し、値の変化や特徴を表・グラフ・式の関係から捉える力
- 証明の根拠として用いられる諸条件の基本的な知識
- 平面・空間図形の基本的な知識

②数学B 主として「活用」に関する問題

平均正答率について、全道平均・全国平均と同等の結果となった。

- 【課題】** すべての領域についての数学的な見方や考え方を問う、記述式の問題の正答率が低い。
- ・文字を用いた式で数量関係をとらえ、構想を立てて説明することができる。
 - ・問題解決の方法を図形の性質を用いて、数学的に説明することができる。

【身につけさせたい力】

- すべての領域において、情報を整理したり、わかりやすく図示したり、思考を深めるための方法や手段、考え方を身につける。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

【数学の対策】

- ①「数と式」、「関数」、「図形」、「資料の活用」の領域についての技能、知識・理解の確実な習得
 - ・学び直しの時間の有効活用
 - ・少人数指導等で基礎基本の確実な習得
- ②数学的な見方や考え方を伸ばす授業実践
 - ・多様な考え方が引き出せる題材を工夫する。
 - ・既習事項をもとに、根拠を示しながら説明する場面を設定する。
- ③「活用する」能力を高める授業実践
 - ・単元において、「活用問題」に取り組む授業を配置する。



全教科を通して授業改善のポイント

- ①統一した授業改善(主体的・対話的で深い学び) **課題提示→解決(話し合い活動)→まとめ**
- ②一人一人に応じた授業の展開
(発展的・補充的な学習など授業の指導方法の工夫・改善)
- ③興味関心、知的好奇心、有用感がわく教材の工夫
- ④考えを出し合い、確かめ合う、話し合う活動
- ⑤話す・書く活動→条件を設定して(語句や字数)、考えや感想をまとめて
- ⑥課題と向き合う効果的な家庭学習の指導(とってほタイムによる学びの連続性)